

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:32人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30
(H28.5現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話:082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカミサンショウウオが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

霧ヶ谷湿原の生物相からの考察

【報告者】八幡湿原自然再生協議会 保全・管理部会 内藤 順一

1 霧ヶ谷湿原再生事業の目標

牧場造成前(昭和30年代前半頃)の生態系を目指すもので、湿地環境はマザミーヌマガヤ群落に、地表水の多い場所はヨシ群落に誘導、事業地北部ではハンノキーマザミ群落の再生、乾燥地はススキ草地を維持し、臥竜山に連続する森林はミズナラ林へ誘導する。(事業計画当初から動物群における再生に向けた指標は具体的に記されていない。)

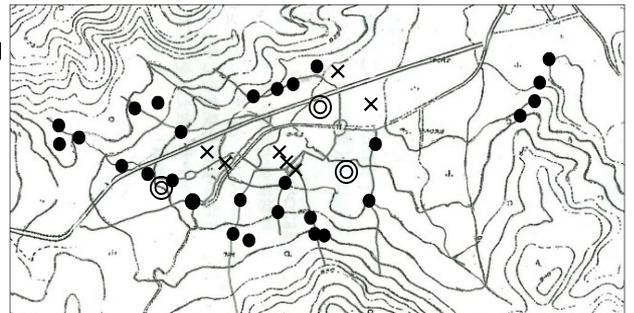
2 再生地の現状等

再生事業は町道西側に実験区を設け、補助導水路を掘削し、配水することによって湿地環境ができることを確認し、事業地全体に拡張されたが、現在は補助導水路が土砂で完全に埋まり、周辺は灌木に覆われている。協議会へは途中から参加したので往時の様子は解らないが、魚類や両生類を担当した筆者は、魚類では幼生期を泥底環境で過ごすスナヤツメ南方種が、両生類では移動能力が低いカミサンショウウオが事業地に定着すれば再生事業が達成されると考えた。

3 再生に向けての取組の成果等

2009年、事業地の最上流域でカミサンショウウオ33卵囊が確認され、2015年には越冬幼生が、2017年には補助導水路の3ヶ所で6卵囊と成体♂1が確認され、2018年まで10年連続して繁殖したことが確認された。

最近、霧ヶ谷湿原を1970年後半に調査された研究者から「牧場の中には、周辺域からの流れや湿地があった」ことを聞き、「再生事業によってカミサンショウウオが移動し、増えた」ということが疑わしく思えてきた。これは「事後＝事前＝成果」であって、ひょっとすると、カミサンショウウオは以前から事業地に生息していたかもしれないのである。右図からみられるように、事業地内で湿地化している場所は、周辺からの「流れ」がある場所であり、そこは現在も、カミサンショウウオの生息や繁殖が確認されているところである。



【凡例】 ●: 繁殖地や生息地を示す
◎: 補助導水路の繁殖地・生息地
×: 2014年までの繁殖地

【再生事業の成果は、周辺からの「流れ」によってカミサンショウウオが繁殖・生息することではなく、補助導水路にカミサンショウウオが生息することに対して評価されるべきである】が、その場所は3ヶ所しか確認されておらず、道半ばである。

2014年までは9ヶ所の確認地があり、事業地中央への拡大が確認されていたが、現在は繁殖や生息が確認されていない。事業地内の幹線導水路や補助導水路を点検すると、土砂で埋まり、実験区と同じように配水されない状況が多数確認された。また、町道の側溝の一部(2ヶ所)は落葉や小石で詰まり、カミサンショウウオの幼生が流水とともに事業地に入れないことも解った。

4 今後の取組

霧ヶ谷湿原は、幹線導水路や補助導水路については常に水をためた状態にすることで、事業地全体に配水され湿地化されると推察される。そのためには、導水路のメンテナンスが必要であり、配水状況をチェックするための管理道も必要と考えている。保全・管理部会では、このまま遷移が進んでも事業地の多くが湿原にはならないと判断し、2009年の工事終了時と同じような状況を作るための伐採とともに導水路の浚渫・拡幅・新設と小池の増設などを計画することで、湿原化に向け、引き続き取り組んでいきたいと考えている。